

平成25年度第1回エコ農業とちぎ推進会議結果概要

日時：平成25年7月16日(火)14:00～16:00

場所：栃木県庁本館9階会議室3

1 報告事項

(1) エコ農業とちぎカタログについて

ア 事務局から、昨年度作成したエコ農業とちぎカタログについて説明

イ エコ農業とちぎカタログについて委員からの主な意見は、以下のとおりであった。

(ア) カタログを配布するだけではなく、エコ農業とちぎの考え方や制度の内容等を示したパンフレットなど作成し、認知してもらう必要があるのではないか。

(イ) 農業者は既にエコに貢献していることを伝える方策の検討が必要でないか。

(ウ) 消費者が農業体験等する際、カタログを活用することで、エコな取組をより明確に気付くことができるのではないか。

(2) 先進事例調査結果について

事務局から、島根県「環境を守る農業宣言」、熊本県「くまもとグリーン農業」の調査結果を報告

2 議事

(1) エコ農業とちぎ推進方針(案)について

ア 事務局からエコ農業とちぎ推進方針の骨格について説明

(ア) エコ農業とちぎに取り組む生産者とそれを応援する県民それぞれが、自ら「宣言」する手法で推進。生産側は「生産宣言」、消費側は「応援宣言」とする。

(イ) 基本施策としては、①生産者へのエコ農業とちぎ理解促進による取組拡大、②エコ農業とちぎへの県民の理解促進、③エコ農業とちぎ宣言者により生産された農産物の流通・販売拡大、④エコ農業とちぎを推進するための技術の充実と普及の4つを核に推進方針を固めていく。

(ウ) 目標値、指標も設定し、関係機関・団体の役割も明確化する。

(エ) 平成26年4月から宣言制度を開始

イ 事務局案に対する委員からの主な意見は、以下のとおりであった。

(ア) エコ農業とちぎの推進は、「認証」ではなく、あくまでも生産者、消費者自らの「宣言」によるものなので、県民全員が参加可能な制度であることを周知徹底する必要があるのではないか。

(イ) カタログを配布するだけで理解するのは難しいと思うので、様々な機会にエコ農業とちぎの考え方などを伝えていく“伝道師”のような人を養成する必要があるのではないか。

(ウ) 栃木はJA系統率が高い県なので、生産者側にカタログを配布し、説明していく機会を作れば、他県に比べかなり浸透していく可能性があると思う。

(エ) 県内で実践している生産者グループや消費者グループなどとの連携を強化し情報の共有化を図ってはどうか。

(オ) 「エコ農業＝安全安心」ということを子どもたちに教えていってはどうか。

(カ) 消費者側にエコ農業とちぎを拡大させていくには、消費者の認知度に応じた宣言をどのように組み立てていくかが重要ではないか。

(キ) 「応援宣言」に、入門編や実践編などランク分けしたり、応援宣言とは別にエコ農業を積極的に学ぼうとする方を対象に「勉強宣言」といった制度を設けても良いのではないか。

(ク) 「エコ農業とちぎ」には物語があるし、消費者受けも良いと思うので、本格的運用の前に課題を探るための試験販売を実施してはどうか。

(ケ) 生産宣言した農業者が生産したエコ農産物を知ってもらうためには、熊本県の事例を参考に「とちまるくん」などキャラクターを活用することも検討してはどうか。

(コ) 「とちまるくん」のシールの貼ってある商品を購入すると、「どうも環境に良い農業に協力できているんだ」と思ってもらえるような、わかりやすさが重要ではないか。

3 その他

事務局から今後のスケジュール等について説明

- ・10月頃にエコ農業とちぎ推進方針の中間とりまとめを行い、来年度当初予算要求に反映させる。
- ・平成25年度第2回推進会議を平成26年2月上旬頃に開催し、推進方針及び制度内容等を決定させる。